

沖縄旅行で考えた税金のこと

熊本大学教育学部附属中学校 1年 小島 万和

「わあ、いた！」

ここは沖縄県国頭村にあるヤンバルクイナ生態展示学習施設「クイナの森」だ。夏休みの家族旅行で私は初めて本物の山原水鶏（ヤンバルクイナ）を見た。全長三十五センチメートル、体重五百グラムの彼の名前は『クー太。』想像していたよりもずっと小さかったが赤い目とくちばし、胸から腹にかけて白黒の縞模様のクー太はとても美しかった。山原水鶏は国指定天然記念物で、その保護や活用には文化庁が関わっているようだ。タブレットで『天然記念物』を検索すると、単に保護活動だけではなく、天然記念物に親しみ、教材として活用するための施設の整備も含む制度であることがわかった。こうしてクー太を見て、ガイドの方から説明を受けることができるのもその制度のお陰だと思った。その後、私たちは沖縄本島最北端の辺戸岬へ車で向かった。途中、山原水鶏の描かれた「動物注意」の標識を何度も見た。道路上で起こる野生動物の死亡事故をロードキルといい、山原水鶏のロードキルも増えているというガイドさんの話を思い出し、胸が痛んだ。

『やんばる国立公園』と書かれた看板が見えた。国立公園って何だろうと思って再度タブレットで検索すると、すぐれた自然を守り、後世に伝えていくところで、国が指定し、保護・管理を担っていると環境省のHPにあった。遊歩道の脇には亜熱帯植物が緑を輝かせ、真っ青な夏空には入道雲、エメラルドグリーン海がとても綺麗で、私は何度もタブレットで写真を撮った。駐車場から岬まで家族みんなで歩いたが、舗装された遊歩道があり、岬には安全柵もあったので、五歳の妹も安心して絶景を楽しむことができた。帰りの車中、私は撮った写真を見ながら、父に言った。

「国立公園ってすごいね。やっぱり国のお金って偉大だね。」

「そうだね。だけど国のお金ってことはみんなが納める税金が使われているってことだよ。税金をちゃんと納めているパパが偉大ってことかな？」
運転中の父が笑いながら言った。父との話で私は小学生の夏休みに法人会の主催する税の勉強会に参加したことを思い出した。買い物体験で消費税の仕組みを教えてもらったのだ。「万和も消費税を払っているから偉大だよ。」と私が言うと、家族みんなが笑った。

飛行機や車、タブレットで旅行を楽しみ、山原水鶏や綺麗な海に心を踊らせ、家族の笑顔があふれた沖縄旅行。私達が発達した生活を保ちながら自然を守るということの難しさを感じたが、だからこそ私達自身がその解決策を考え、実行していかなければならないと思う。税は科学技術の発展だけでなく、自然環境の保護にも役立っている。税を考えることは環境問題の解決にも繋がる。この偉大な税を最大限に活かすことが我々の責務だ。